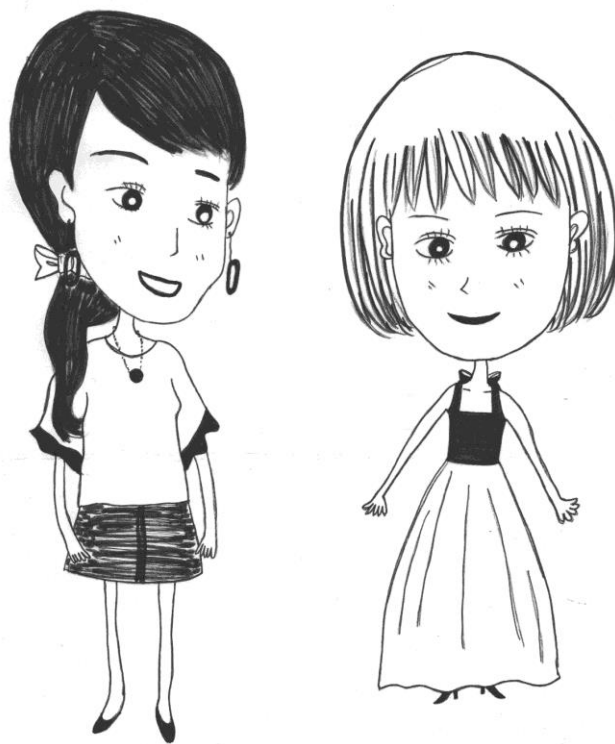


自信がなくても自分らしくできる

ピアノ講師1年生のための はんなり流☆ ピアノの教え方

第2章 レッスン初日の内容



スカラー

■はじめに

この章では、初日のレッスンの指導内容に絞って作りました。

初日のレッスンのポイントや、教材はどこまで進めるのか、また音符、リズムはどこまで教えていくのか等についてお伝えしていきますね。

レッスン初日というのは、体験レッスン同様かなり疲れます！！

それは「真ん中のドの説明と、手の形の説明と、あとドレミの音を教えて、リズムも3種類教えなくちゃ・・・」という風に、子どもに教えることが山のようにあるからです。

また、子どもとのコミュニケーションが出来ていないこともあり、お互いが緊張していることも疲れる理由の1つですね。

でも、**初日のレッスンまでに教えるべきこと、伝えるべきことをきちんと整理しておく**と、乗り切れる自信がつくのではないかと思います。緊張はしますけどね・・・(^-^;)

この章をじっくり読んでいただき、当日のイメージトレーニングをしてみてください。

■ 目次

■はじめに	2
■目次	3
■レッスン初日のスケジュールはこちら	4
■レッスン初日のポイントは？	5
① 一度にたくさん言わない	5
② 子どもに“できた感”を持ってもらう	6
③ 生徒と先生の立場をはっきりさせる	6
■Part1 ピアノの弾き方指導実践その①	8
指番号を教えよう！	8
手の形の教え方	9
【コラム】指のどの辺りで弾けば良いか？	12
鍵盤への置き方	13
必要な教材	14
実際の進め方	15
【コラム】宿題の出し方について	21
■Part2 音符の読み方指導実践その①	22
必要な道具	22
実際の進め方	23
■Part3 リズムのたたき方指導実践その①	26
必要な道具	26
実際の進め方	27
■おわりに	33
■規約	34

■レッスン初日のスケジュールはこちら

第1章の「レッスンの前に考えること、用意すべきもの」がわかったところで、いよいよ実践に入っていきたいと思います！

スカラーのピアノ教室は40分レッスンですので、40分を基本にしてお伝えしていきますね。

●40分レッスン

※40分レッスンですが、レッスンノートへの記入や雑談をしたりする時間もあるので、レッスン時間は正味35分です。

項目	時間
①ピアノを弾く 「バスティン」の教材に沿って教えていく	15分
②音符を読む 「ド」「レ」「ミ」を教える	10分
③リズムをたたく 3種類のリズムを教える	10分

時間配分は、①②③がだいたい同じぐらいで、どれも並行して教えていきます(^-^)

■ レッスン初日のポイントは？

ポイントは3つあります。

- ① 一度にたくさん言わない（少しずつ教える）
- ② 子どもに“できた感”を持ってもらう（できることを増やしていく）
- ③ 先生と生徒の立場をはっきりさせる（友だち感覚で教えない）

では、1つずつ見ていきましょう。

① 一度にたくさん言わない

子どもというのは一度に色んなことを言われると混乱してしまいます。

初日というのは、色んなことを教えるので、子どもにとっては大変な一日です（先生にとっても勝負の一日です！！）。

なので、子どもの頭がパンクしないように、あまり詰め込め過ぎず、覚えてもらいたいことを最小限に絞って教えるのが良いです。つまりは**少しずつ教えていく**のです！！

スカラーは新米講師のころ、初回のレッスンで、音符の説明、拍の説明、手の形等、一度にあれこれ言いすぎて、子どもに泣かれそうになった経験があります(;´▽`)

なので、「ここすごく大事なところやから、来週までに覚えて来てね」とか、「今日はこれだけ覚えよう」とか、逆に「これは今はふ～んって思っておくだけで良いからね」とか、緩急

をつけて教えてあげると good!

② 子どもに“できた感”を持ってもらう

“できた感”を持ってもらうレッスンというのは、要するに「その子ができることだけをする」ということです。

初日のレッスンで難しいことをしてしまうと、「自分はできなかった」「ピアノって難しいかも」と思われてしまって、子どもの自信がなくなってしまいます。

なので、**できることを増やしていくレッスン**を心掛けましょう!

これも新米講師のころ、音符もろくに教えていないのに、いきなりピアノを弾けと言ってしまって、子どもに泣きそうな顔で「もう帰る」と言われた経験があります(;´▽`)

できることを増やしていくレッスンにすることで、「全部できた」→「自分でもできる」→「ピアノって楽しい」という良い循環が生まれてくると思うのです。

③ 生徒と先生の立場をはっきりさせる

これはもしかしたら教え始めはそこまで考えられないかもしれませんが、最初のタイミングで知っておいてほしいのでお伝えさせていただきますね。

スカラーが新米講師のころ、「先生」という立場で教えるのがなんだか偉そうやなあと思っていたので、生徒さんとはお友だち感覚で付き合っていました。レッスン中も特に怒らずに子どものやりたいように自由にさせていたんです。口調もすべてタメ口で接していました。

でもそれが続くと、「あの先生、私の言うことを全部聞いてくれる」と思って、どんどんわ

がままになっていきました。つまり先生を**なめはじめたんです**！！そうすると、レッスン中の指導権が生徒になってしまって、レッスンは上手く進まなくなったことがありました。

なので、そうなる前に、最初のレッスンのときから、**先生と生徒という立場をはっきりさせた方が**良いんです。

これは私の場合ですが、「はい～。カバンから本とってなあ～」、「ピアノの椅子に座ってなあ～」と言うよりかは、「はい。カバンから本をとってください」、「ピアノの椅子に座ってください」など、ピシッとしゃべると、子どももピシっとした態度を取ってくれるようになります。時に優しく、時に厳しくやっていくのが良いかなと思います。

では、初日のレッスンのポイントがわかったところで、いよいよ実践に入っていきます。

Part1 ピアノの弾き方指導実践その①

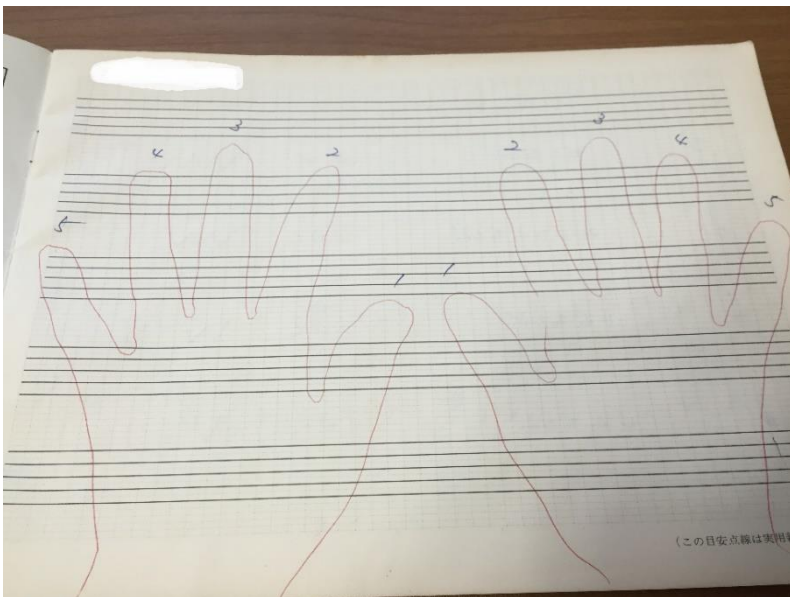
この章では、あくまで初日のレッスン内容だけにフォーカスしてお伝えしていきますね。
まずは「ピアノを弾く 15分」のレッスン内容です。

指番号を教えよう！

ピアノを弾く前に指番号を教えてあげましょう。

音楽ノートやA4の紙に手形を書いてあげて、そこに指番号をふってあげます。

自分の手形を見た子どもはとっても喜びますし、何よりわかりやすいようです (*^-^*)



ここで指番号をしっかり教えます。

●子どもへの説明の仕方

「親指から数えて、1 2 3 4 5と順番に数えていくよ。1の指は親指。2の指は人差し指。3の指は中指。4の指は薬指、

5の指は小指になるんだよ」と1つずつ丁寧に教えてあげます。

ひとつお教えたら次は左右の認識のチェックです。まだ左右の認識がはっきりしない子もいるので、「**左手の2の指を動かしてみよう**」とか、「**右手の3の指はどれかな？**」などと声をかけて、左右の確認をしてあげると良いと思います。

*** 注意点 ***

左手の指使いですが、小指から数えて1 2 3 4 5と間違えて数えないように注意をしてあげてください。あくまでも親指から数えて1 2 3 4 5となるようにしてください。

指番号を教えたら、次はピアノを弾くときの手の形を教えてあげましょう！ここが重要なのでしっかりやっていきますよ。

手の形の教え方

ピアノを弾くときの手の形を教えるのってけっこう難しいです。

実は講師を始めたころ、なかなか手の形まで教えられなかったんですよね(;´▽`)

必死に音符や、鍵盤の位置を覚えている子どもに手の形まで言うなんて、あまりにも酷や……。ピアノがイヤになるんじゃないか、とっていたんです。

でも、結局そのまま教えずにいたところ、変なクセがついてきたりして、修正するのが大変だったんですね。なので、そんな経験から、手の形は導入期にきちんと伝えた方が良いと思っただけです。

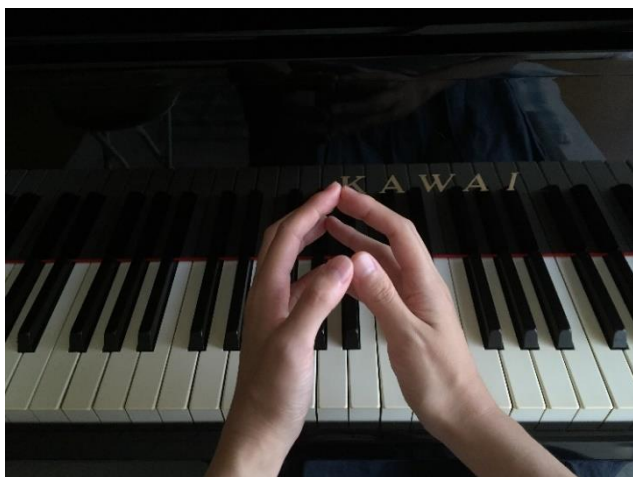
そこで、あれこれ細かく言わなくても、一瞬できれいな手の形になる方法をお伝えしたいと思います。

●やり方

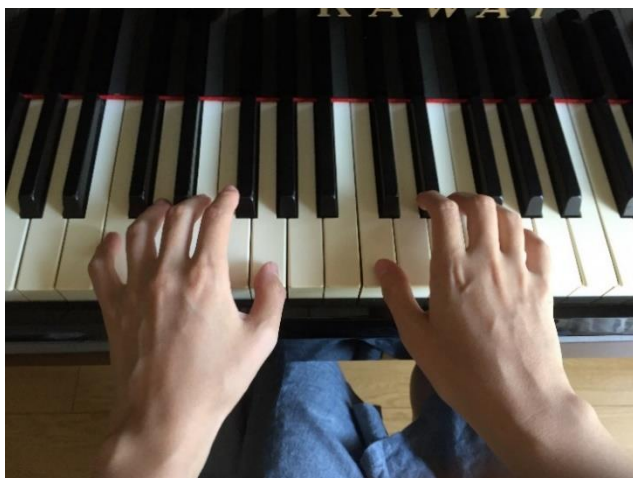
①「いただきますのポーズをしようね」と言います。



②「ふわあ〜っ」と手をゆるめて、手の中に空気のボールを作るようにふくらましてね」と言い見本を見せます※ポイントは「ふわあ〜」です！



③「ふわあ〜っとした手をそのまま鍵盤の上に置いてみようね」と言います。



※これが手に余計な力が入っていないベストな状態なんです。

このやり方は、ピアノ導入教材「ピアノランド」を作った樹原先生がおっしゃっていたやり方です。

この方法やと、「指のこの部分で弾こうね」とか、「脱力するんだよ」とか、「指先には力を入れるんだけど手首はやわらかくするんだよ」とか、ごちゃごちゃ言わなくて済むんです。実際に子どもたちは、ふわっとしたきれいな手で弾いてくれるようになったので、効果を実感しています。

*** 空気のボールを作るポイント ***

とにかく余計な力を入れないことです。

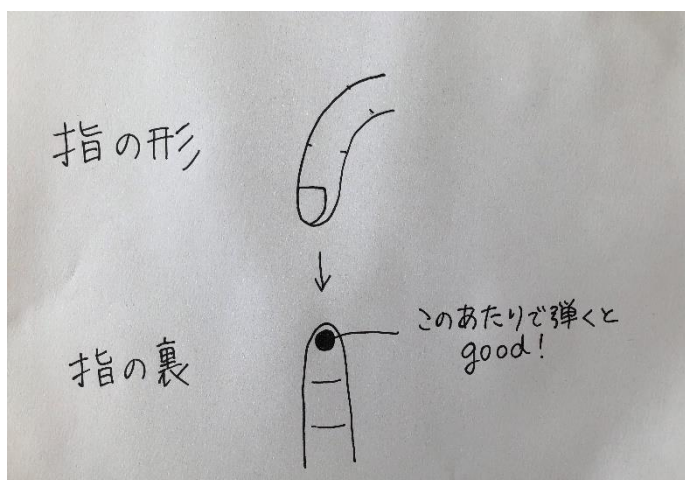
手のひらもふわふわ、手首もふわふわ、指先も、指がくっついてはいるけれど、ふわふわの状態です。手に余計な力が入っていない状態がベストです。

では、手の形の教え方がわかったところで、次は、そもそも指のどの辺りでピアノを弾くと良いのかについてお伝えいたしますね。初日のレッスンでは必要がないことかもしれませんが、知識として知っておいてもらえたらと思います。

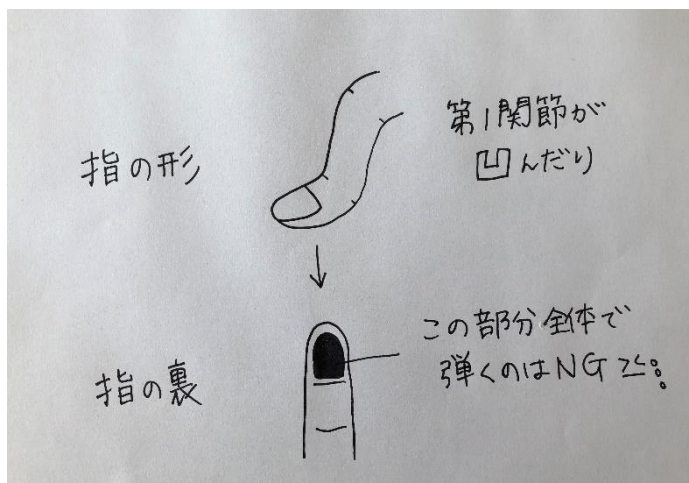
【コラム】 指のどの辺りで弾けば良いか？

ピアノを弾くときの指は、「**指の先っぽと指の腹の間ぐらい**」で押すのが、ちょうど良いと思います（指の先っぽすぎると爪が当たったりして弾きにくくなるし、指の腹だとベタ弾きになる可能性があるのです）。

理想の指の形



NGの指の形



※ちなみに親指の場合は、親指の側面で弾きます。

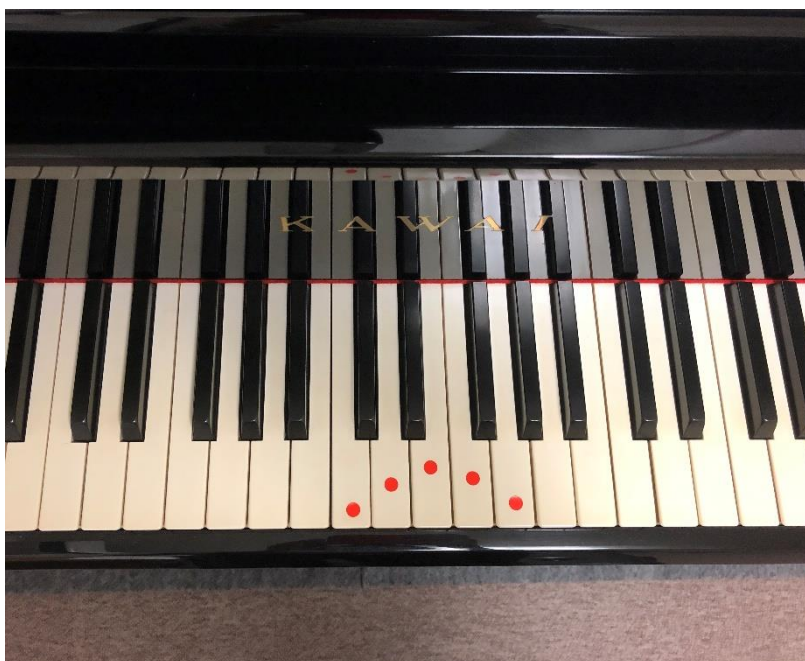
では、本題に戻りましょう。

ふわあ〜とした手の形ができれば、次は、鍵盤への置き方を教えてあげましょう。

鍵盤への置き方

まず鍵盤のドレミファソのところにシールを貼ります。

ちょうど**扇形**になるように貼るのがポイントです（子どもの指の長さに合わせて貼ってあげてください）。



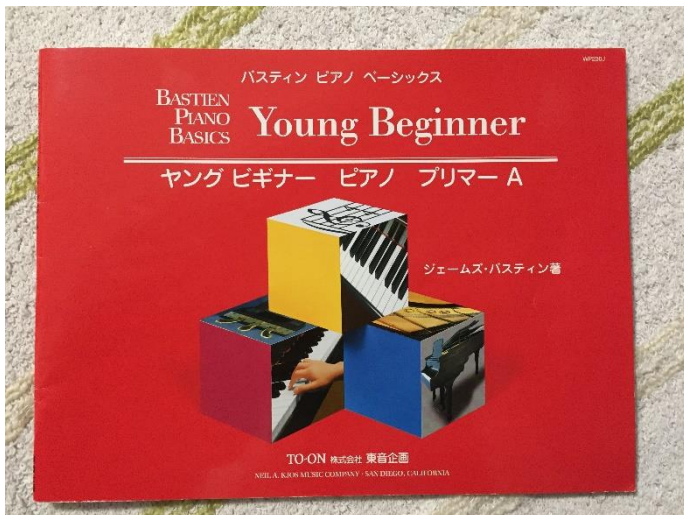
それで、「**シールが隠れるように手を置こうね**」と言って、右手を鍵盤に置いてあげます。このときに、使っていない**左手は膝の上に置く**ことを伝えます。足はぶらぶらしないように伝えるなど、最初に正しい姿勢を教えてあげましょう。

※しばらくシールを貼ったままレッスンをすれば、どの位置を押したらよいかがあるので、やりやすいと思います。慣れたらシールを外しましょう。

指番号、手の形、鍵盤への置き方を教えたなら、いよいよ「バスティン」のテキストをやっていきましょう！

必要な教材

「バスティン プリマーA」



「バスティン」は、ピアノの導入本でピカイチにわかりやすく教えやすいです！これ以上教えやすい導入教材はないのではと思うぐらいです。

「バスティン」の最大の特徴は、5線がないことです。

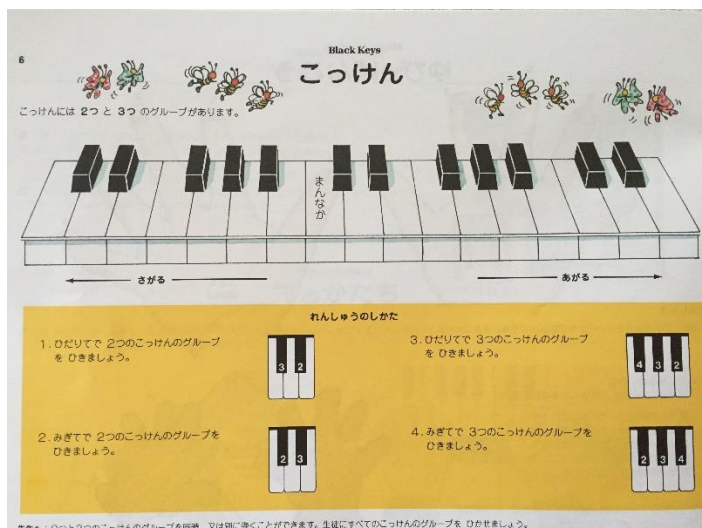
つまりは、「**音符を読むことが先ではなくて、とにかく指がスラスラ動くようにする**」ことなんです。

なので、最初は音符が読めなくても大丈夫！まずはピアノを弾くことに慣れていきましょう。

「バスティン」はいろんな種類がありますが、「プリマーA」からするとやりやすいです
(*^-^*)

実際の進め方

最初はp6の「こっけん」。「ド」の位置を教え、2つの黒鍵、3つの黒鍵を弾かせます。



まずは黒鍵を弾いてもらいます。

●子どもへの説明の仕方

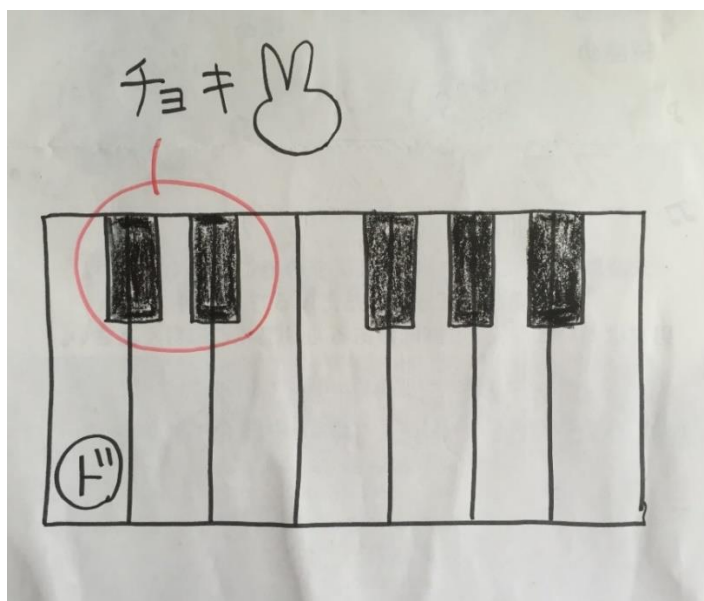
「ピアノの黒い鍵盤をよく見てみよう。2つの黒い鍵盤と3つの黒い鍵盤があるんだよ。2つの黒い鍵盤を2、3の指で弾いて、3つの黒い鍵盤は2、3、4の指で弾いてみようね」と言い、やってもらいます。

そしたら今度は「ド」を教えます。

●子どもへの説明の仕方

「2つの黒い鍵盤のところをチョコキで押してみよう。チョコキで押した左下が「ド」なんだよ」と言います。

※黒い2つの鍵盤のところを「チョコキ」と覚えましょう。



で、「ド」がわかったら、いろんな「ド」を弾いてもらいます。

●子どもへの説明の仕方

「他にも「ド」があるよね。何個見つけられるかな？」 と言
い、鍵盤上にあるすべての「ド」を探して弾いてもらいます。
見つけられた子どもは、「全部わかったぞーっ」という感じでとても誇らしそうな顔をしま
す(*^-^*)

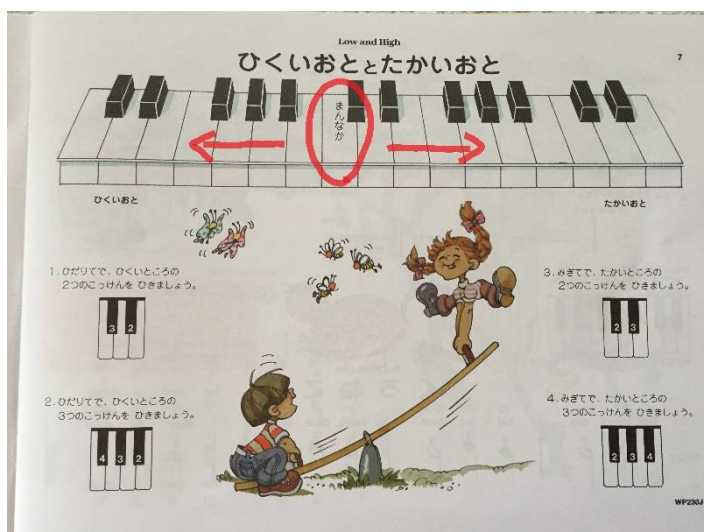
最後に、真ん中の「ド」を教えてあげましょう。

●子どもへの説明の仕方

**「真ん中の「ド」は、自分がピアノの真ん中に座った時にお
へそが一番近い「ド」が、真ん中の「ド」なんだよ」** と言いま
す

ここまでで、指番号、手の形、鍵盤の「ド」の位置を覚えることができました。

p7「ひくいおととたかいおと」では、真ん中の「ド」を起点として、音の上がり下がりの説明をします。



●子どもへの説明の仕方

「真ん中の「ド」から右に行くと高い音になって、左に行くと低い音になるよ」と言います。

音の上がり下がりの説明は、一見当たり前のようですが、こういう当たり前のことを意外とわかっていないので、最初のタイミングで言うとおくと良いですよ。

※ p8、9 は、黒鍵だけで弾く曲で楽しくないので飛ばします（子どもは黒鍵よりも白鍵を好みます）。

p10「あめ あめ」でいよいよ右手で「ドレミ」を弾きます



さあ！ いよいよ音符を弾いていきますよ！

ここからは子どもへの説明の順番がと〜〜っても大事ななので、しっかり見ていきましょう。

●子どもへの説明の仕方

- ① 「今日はね、3本の指を使ってドレミを弾いていくよ」と何をするかを最初に言います。
- ② 「まずはリズムを数えながら手をたたいてみようね。白丸の音符は、ターアン、黒丸の音符をターと言うよ。ターアン ターアン ターター ターアン ターターターター ターターターアン」と手をたたかせます。
- ③ 「上手にできたね。じゃあピアノを弾いていくよ。ドの鍵盤に右手の親指を置いてみよう。ドレミは1、2、3の指を使って弾くんだよ。ゆっくり弾くよー・・・」と言って弾かせます。このとき、使っていない左手は膝の上に置いておくように伝えます。
- ④ 「次は、音の名前を言いながら弾いてみるよ。ドードー レレレー・・・」という風にドレミを言いながら弾かせます。

⑤ 「上手にできたね。次は、リズムを言いながら弾いてみようね。ターアン ターアン・・・」

という風にリズムを言いながら弾かせます。

⑥ 「がんばってできたね。じゃあ最後は、歌いながら弾いてみようね。あーめーやんどくれー」と、歌詞を歌いながら弾かせます。

これで、ひとまず「あめ あめ」の説明が終わりです。

いやあ～、どうですか？ 1曲弾いてもらうためにはこんな地道なやり方でやっていくんですよ（正直、結構大変です・・・！たくさんしゃべらないといけないので喉もカラカラ・・・笑）。先生としても、この最初のタイミングで何とか上手に弾いてもらいたいので、全神経を集中させて教えないといけないところです。

またこうやって、リズムで弾いたり、音名で弾いたり・・・ということをやっていると、1曲を合計3回弾いたことになるので、反復練習になって良いのです(*^-^*)

このやり方、実は「バスティン」ならではの進め方なんです。

楽譜の左側中央のオレンジの部分を見てください。

10
はっけん



れんしゅうのしかた

1. リズムをかぞえながら、てをたたきましょう。
2. てを正しいポジションにおきましょう。
3. ゆひのばんごうをいながら ひきましょう。
4. おとのなまえをいながら ひきましょう。
5. リズムをかぞえながら ひきましょう。
6. うたいながら ひきましょう。

Rain, Rain
あめ あめ

【れんしゅうのしかた】が事細かく書いてありますよね。
要するに、先生はこの【れんしゅうのしかた】に沿って教えればいいんですよ。教える順番が書いてあると先生もラクです(笑)。

で、「あめ あめ」の説明が終わったら、復習のためにもう一度お家でやってきてもらいます。そして新たにp11を宿題に出します。

●子どもへの説明の仕方

「p10はお家でもう一度弾いてきてね。それで新しくp11を宿題に出すね。黒い音符と白い音符に気をつけて弾いてきてね。練習のやり方はオレンジ色の部分【れんしゅうのしかた】の順番で弾いてくるんだよ」と伝えます。

手の形を教えるタイミング

最初から手の形を教える余裕があればそれが一番良いのですが、ない場合は、一度自由にピアノを弾かせたあとに、「上手に弾けたね。実はねピアノを弾くときの手って、とっても大事でね、こんな感じで弾くとき綺麗な音が出るよ」といった流れで教えてあげるとよいです(手の教え方はp9でお伝えしています)。

指導のポイント

必ず【れんしゅうのしかた】の順番に弾いてもらうこと。
楽譜に「CDE」とアルファベットが書いてありますが、アルファベットの説明はレッスンを開始して1カ月ほど経ってからで良いので今はふれません(まずは、音符をきっちり覚えさせてください)。

※p11まで進んだら、次回のレッスンはp14へ進みます(そのままp12にいくと、いきなりへ音記号になるので、まずはト音記号から固めていきます)。

これで、ピアノの教え方は以上です。

ここで、ちょっと休憩です。宿題の出し方についてお話しておきたいと思います。

【コラム】宿題の出し方について

これはスカラーのやり方ですが、最初のレッスンでは**復習1曲+新曲1曲の合計2曲を宿題**にしています。

でも、中にはどんどん前に進みたい子どももいるので、その場合は、一気に3曲~5曲ほど宿題にしても良いと思います。子どもの「もっと弾きたい!」という気持ちを優先させてあげると良いと思います(*^-^*)。この時に注意したいのが曲の完成度です。いくらどんどん弾きたいからといって、音の読み間違えがあったり、リズムがおかしかったり、手の形がおかしいようであれば、たくさん弾いている意味がありません。なのでそういう場合は、宿題を減らして1曲ずつ丁寧に見ていくクセをつけてあげましょう。

また1曲弾くので精一杯の子どもの場合は、たくさん宿題を与えてしまうとしんどくなるので、宿題を少なめにしたりして調整したらよいと思います。

で、練習方法の伝え方ですが、小学1年生の子どもに、新しい曲を見せて、「はい。これお家で練習してきてね~」と言っても、何をどう練習して良いかわかってないんです(;´▽`)。なので、具体的に**どんな練習をすれば良いかと具体的な数字**で教えてあげると良いと思います。

お家でやること	回数
ドレミで歌いながら弾く	2回
リズムを言いながら弾く	2回
歌詞で歌いながら弾く	2回

スカラーの場合は、上記のことを生徒のテキストに書いてあげます。そうするとお家に帰ってどうやって練習したら良いかわからない、ということにはならないと思うのです。

Part2 音符の読み方指導実践その①

導入期の子どもに音符を一から教えるのは、簡単そうで実は難しいです。そして「教える順番」がものすごく大事なのです。

「この順番で覚えたら絶対に迷わない!」「こんな言い方で教えたら混乱しない!」というやり方をお伝えしていきますね。

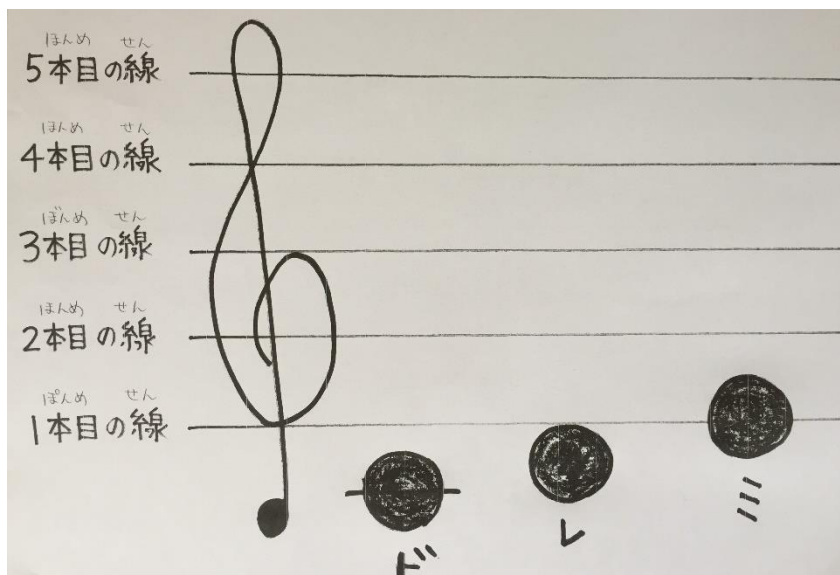
レッスン初日は、「ド」「レ」「ミ」の3音だけ教えたら充分です。

「音符を読む10分」のレッスン内容です。

必要な道具

・ト音記号「ド」「レ」「ミ」を書いた紙。

※音符はできるだけ**大きな字で書いてあげる**と子どもは見やすいようです
(‘ω’)



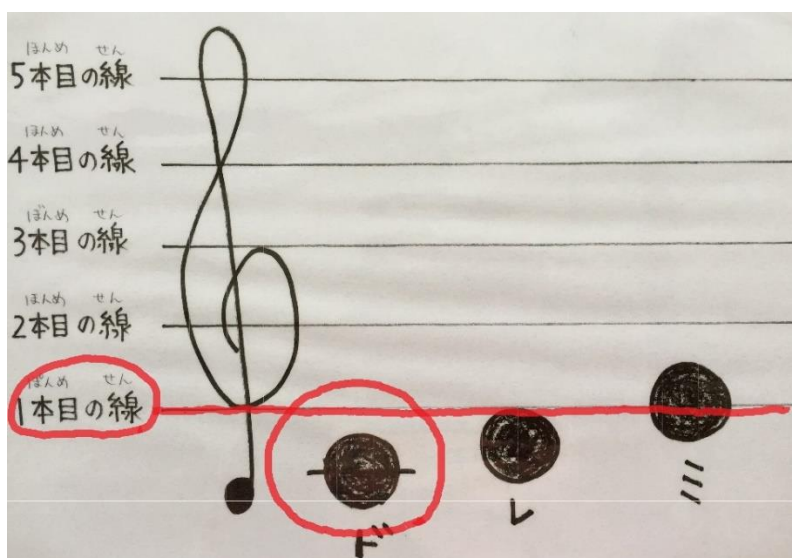
※事前に用意した紙でも良いし、何も書いていない紙に子どもの目の前で音符を書いてあげる方法でも良いと思います

実際の進め方

真ん中の「ド」の説明

●子どもへの説明の仕方

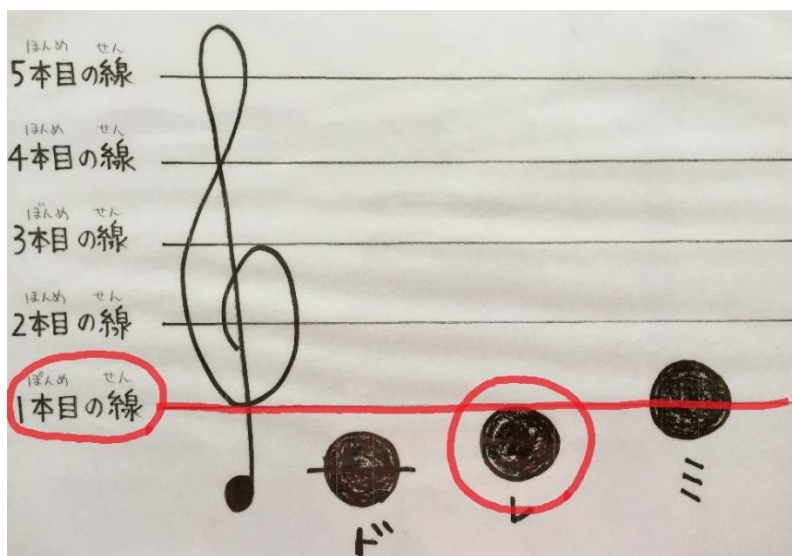
「真ん中のドを覚えようね。この音は、1本目の線より下の線につきささっている音だね」と言います。



「レ」の説明

●子どもへの説明の仕方

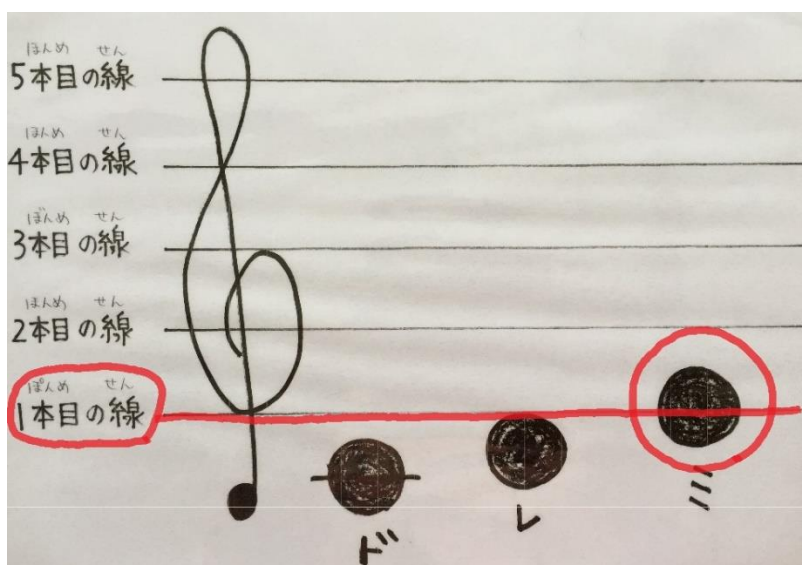
「レの音は、1本目の線の下にぶらさがっている音だよ」と言います。



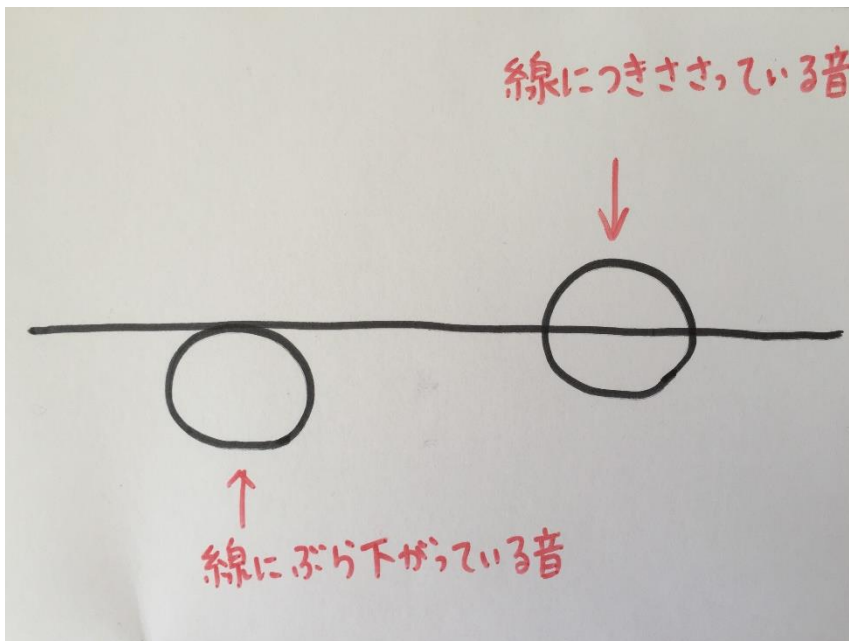
「ミ」の説明

●子どもへの説明の仕方

「次はミの音だよ。1本目の線につきささっている音だね。さっきのレの音との違いはわかるかな？」と言います。



ここでポイントになるのが、**線にぶら下がっている音か、線につきささっている音かの違い**に気づいてほしいのです。違いがわかればレとミの違いは一発でわかります！



※導入教材の「バスティン」は、最初は音を読んで弾かないので、今すぐに音符を覚える必要はないですが、ピアノを弾くことと並行して少しずつ音符を覚えていきましょう。

最終的には、ト音記号の「ドレミファソラシド」、ヘ音記号の「ドシラソファミレド」が覚えられるように進めていきましょう！

これで、音符の教え方は終わりです。緊張の初回レッスンも残り10分です。
あともうひと踏ん張りですね！

Part3 リズムのたたき方指導実践その①

リズムは音符を教えることと同じくらいとっても大切です。

導入期からリズムをしっかり覚え込ませていくと、リズムに強い生徒になりますよ。

初日のレッスンは、3種類のリズム（2分音符・4分音符・8分音符）を教えましょう。

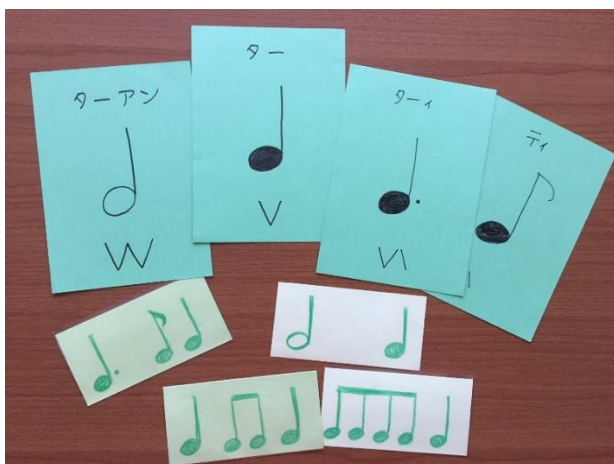
「リズムをたたく10分」のレッスン内容です。

必要な道具



・音符の積み木（スカラーが使っているものは、リトミック研究会で購入した非売品です。類似品はこちらです→）[音符の積み木](#)

余談ですが、子どもたちは音符の積み木が大好きで、率先して音符の積み木をつみきをやりたいがります。高かったですけど買って良かったと思っています。

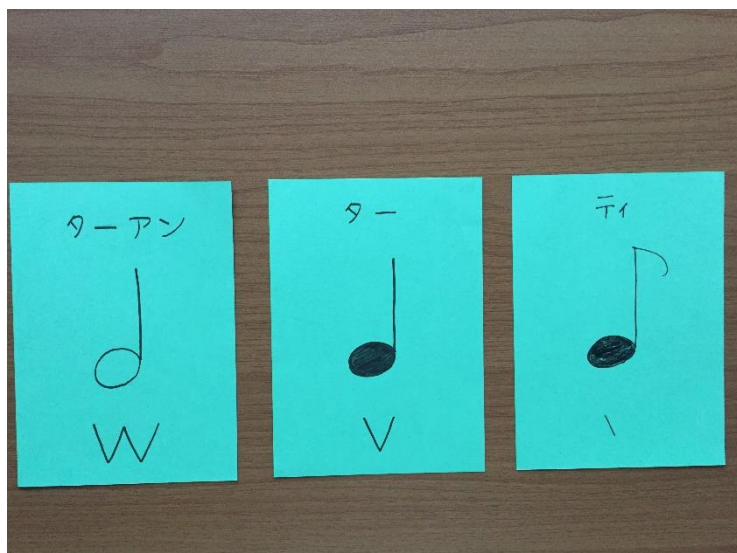


・「リズムカード」
（色画用紙にペンで音符を書いたものです）

実際の進め方

まずは3種類のリズムを教えます。

左から、2分音符・4分音符・8分音符です。



● 言い方

- ・ 2分音符は、「ターアン」
- ・ 4分音符は、「ター」
- ・ 8分音符は、「ティ」

※音符を「ターアン」や「ター」、「ティ」でいう言い方をリズム唱といいます。

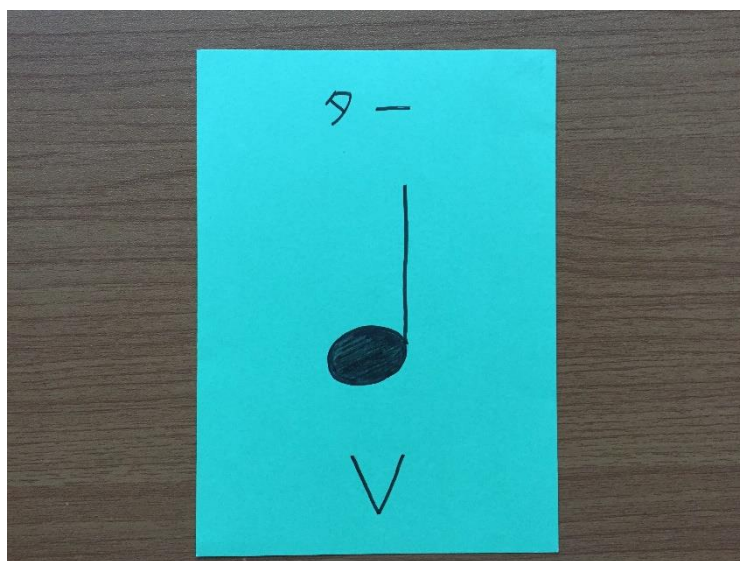
この言い方はリトミック研究会で使われているものです。

4分音符の説明

●子どもへの説明の仕方

・「今日からリズムを覚えていこうね。リズムはピアノを弾くときにとっても大事なんだよ」と言います。

・4分音符のカードを見せて、「黒い丸に棒がついているね。これね4分音符っていうの。たたき方はターね。たたいてみようね。せーの、ター」と言って、リズム打ちをします。



・「じゃあ、4分音符が4つあったらどうやってたたくかな？」と言ってたたかせます。

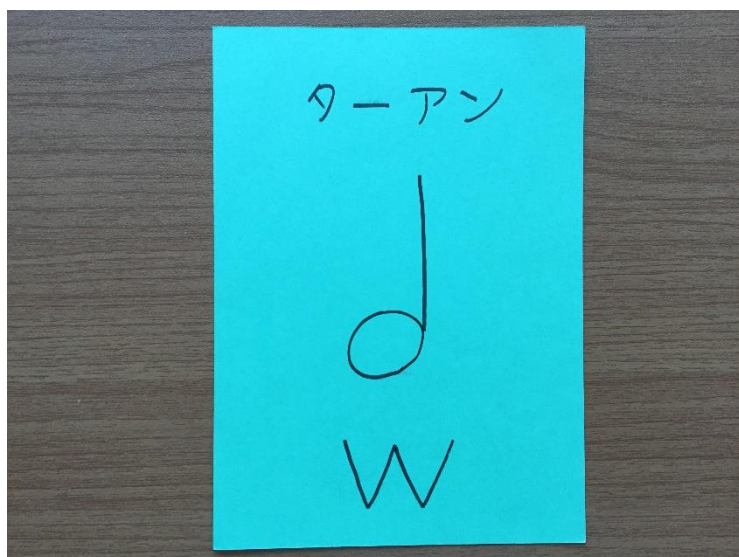


・「ターターターターになるね。正解！」

2 分音符の説明

●子どもへの説明の仕方

・「次はこの音符ね。さっきの音符とどこが違うかな？ そうだね。丸の中が白いね。この白い丸に棒がついている音符は、2分音符っていうよ。たたき方はターアン。たたいてみようね。せーの、**ターアン**」と言って、リズム打ちをします。

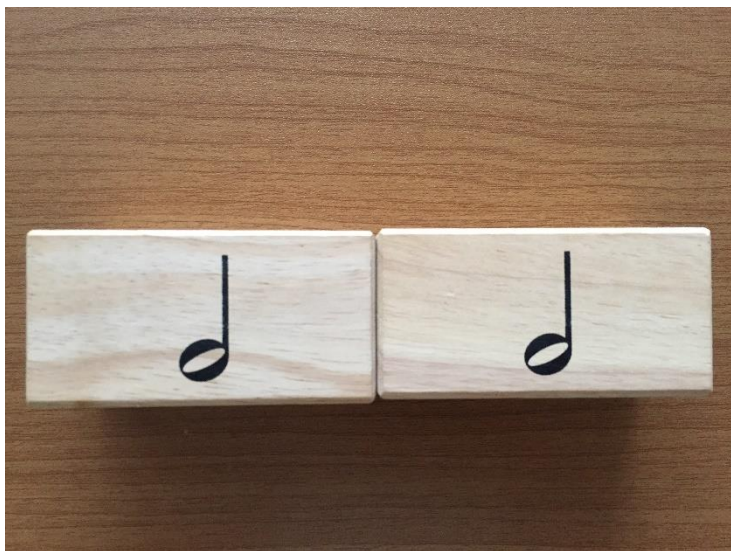


・「2分音符はさっきの音符より**長く伸ばすんだよ**。だからたたくときは、**空気のボールをふくらませるように大きくたたいてみようね**」と言ってたたかせます。



第2章 レッスン初日の内容

・「じゃあ、2分音符が2つあったらどうやってたたく？」と言ってたたかせます。

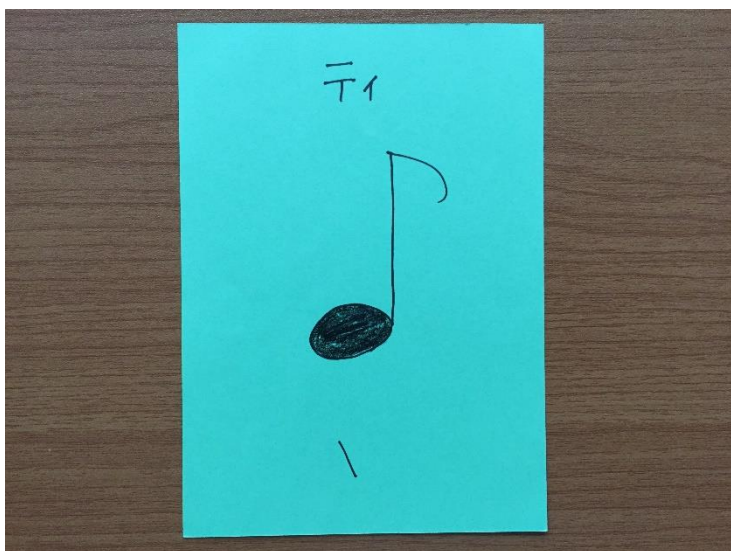


・「そうだね。ターアン ターアンになるね。正解！」

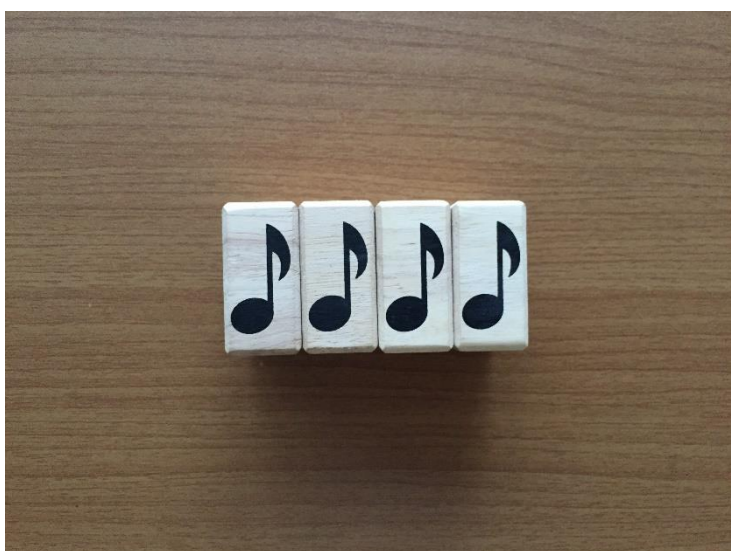
8分音符の説明

●子どもへの説明の仕方

・「最後はこの音符。黒丸に棒があって旗みたいなのがついているね。これは8分音符っていうよ。たたき方はティね。たたいてみようね。せーの、**ティ**」と言ってリズム打ちをします。



・「じゃあ、8分音符が4つあったらどうやってたたく？」と言ってたたかせます。

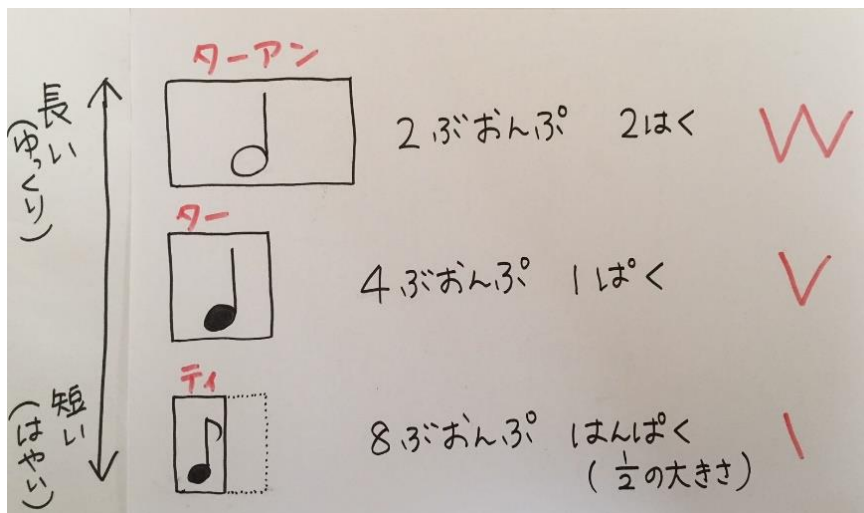


・「そうだね。ティティティティになるね。正解！」

*** 指導のポイント ***

リズムをたたくときは、まず先生が見本を見せてから子どもにやってもらおうと良いです。子どもは先生のマネをするのが得意なので、難しいかな？と思うようなリズムもラクラクこなしてくれます。

また4分音符を基準に、4分音符より長い音なのか短い音なのかをわかってもらうことが大事です！



これでリズムの教え方は終了です。

やっと初回のレッスンが終わりました！あとは雑談したり、その日のレッスンを振り返ったりして子どもたちとコミュニケーションをとりましょう。

■おわりに

これで、第2章の「レッスン初日の内容」は終わりです。

初日のレッスンを教えるのは本当にエネルギーが必要で大変なのですが、
レッスんがうまくいったときの達成感は何とも言えませんよ！

1つずつ読んでいただき、レッスンの参考にさせていただければうれしいです(*^*)

■規約

このレポートの利用に際しては、以下の条件を遵守してください。

このレポートに含まれる一切の内容に関する著作権は、レポート作成者に帰属し、日本の著作権法や国際条約などで保護されています。

著作権法上、認められた場合を除き、著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部を、複製、転載、販売、その他の二次利用行為を行うことを禁じます。

これに違反する行為を行った場合には、関係法令に基づき、民事、刑事を問わず法的責任を負うことがあります。

レポート作成者は、このレポートの内容の正確性、安全性、有用性等について、一切の保証を与えるものではありません。また、このレポートに含まれる情報及び内容の利用によって、直接・間接的に生じた損害について一切の責任を負わないものとします。

このレポートの使用に当たっては、以上にご同意いただいた上、ご自身の責任のもとご活用いただきますようお願いいたします。

◆作成者 スカラー

◆特定商取引法に基づく表記 <http://loopleftine.shop-pro.jp/?mode=sk>